

平成 24 年度 第 4 回経営学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日 時：平成 24 年 8 月 22 日（水）午後 3 時 00 分～午後 6 時 30 分
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：大塚晴之委員長、佐々木利廣副委員長、岩井千明委員、佐藤修委員、
安田英土委員、日置慎治委員(ネット参加)
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 最初に「学士力実現に求められる教育改善モデルの検討」のうち、背景説明にあたる学士力の解説について委員から提出されたドラフトをもとに検討した。まず学部教育（専門知識や技能の習得を中心）と学士課程教育（専門知識・技能の習得・活用を中心）という用語区分を前提に、後半で述べる 4 つの視点を提示した背景を最初のパラグラフで簡潔にまとめて提起することにした。そして委員会での最初の共通認識であった社会的責任の視点を経営学教育の基盤に置くという視点を確認しながら、経営を考えるとときになぜ社会的責任を重要するかを明記することにした。

そしてドラフトのなかで列記されている、組織の社会的役割、内部資源、外部資源、という 3 つのキーワードをもとに以下のような文にまとめた。この部分が学士力の解説の結論にあたる部分であり、それぞれを以降で説明することになる。

経営学教育は、企業をはじめとする組織の経済的・社会的な役割、人・物・金・情報等の内部資源の活用、組織が外部環境に与える影響、を多面的に理解させ、社会の変革・発展に資する人材を育成することである。

2. その後もドラフトを参考にしながら、①企業をはじめとする組織の経済的・社会的な役割、②人・物・金・情報等の内部資源の活用、③組織が外部環境に与える影響、という 3 つのキーワードをもとに、それぞれの具体的説明を議論した。さらに、ただ社会に適応だけでなく、社会の変革や発展に資する人材の育成という視点も追加することにした。

- 第 2 パラグラフでは、組織の社会的責任を重視することを前提に、多様な価値観を理解し、相反する利害関係を調整して、解決案を提示・実行できる人材の育成をポイントにした。
- 第 3 パラグラフでは、法令順守や社会倫理の順守（コンプライアンス）と持続的な経営（サステナビリティ）の両立が必要であることをポイントにした。
- 第 4 パラグラフでは、人・物・金・情報という内部資源をどのように調達し、活用するか仕組みを理解させながら、組織の全体的活動を経験的に理解させる方法を工夫することが必要であることを強調した。とりわけ経営実務を具体的に体験できない学部学生に対して、経営理論と現実の企業活動の具体的関連性を理解してもらうには、アルバイトはもちろんクラブやゼミなど身近な組織

体験を通じての組織運営の理解に加えて、ビジネスゲームやケースメソッド、さらにはロールプレイングなど、多様な教育方法を利用する必要があることが議論された。

●そして最後の第 5 パラグラフでは、企業をはじめとする組織の活動が社会に及ぼすプラスの効果とマイナスのリスクを考えながら、社会の変革や発展に繋がるような革新的提案を行う積極的姿勢をもたせることも必要であるという内容を追加することになった。

3. 続いて後半の時間を利用して、教育改善モデルの編集のために到達目標 1 から到達目標 4 までのそれぞれについて、各委員から提出された解説文を検討した。

●到達目標 1 の企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できるについては、委員から提出された案をもとに加筆修正を行った。まず利害調整を行っているステークホルダーを具体的に明示する方が分かりやすいということで、文中に株主、債権者、従業員、顧客、取引先、地域社会、行政機関などステークホルダーを列記することにした。さらに、社会的責任に照らして組織活動を倫理的・複眼的に捉えることの必要性を強調することにした。

●到達目標 2、到達目標 3、到達目標 4 の案の検討については時間的制約もあり次回委員会で継続審議を続けることになった。

今後の予定としては、今回の委員会で検討し、まとまった学士力の背景の部分について、説明文を鳥瞰図として理解できるようなピラミッド型の図を追加することになった。また、継続審議の到達目標 2、到達目標 3、到達目標 4 の案についても改めて検討することになった。教育改善モデルの編集に関して、その 1 とその 2 の二つについて、モデルを具体化するために必要な図表や補足説明などの追加を課題として検討することになった。最終的な分量としては、A 4 で 3～4 枚程度になる予定。

●次回の第 5 回委員会は、9 月 20 日(水)18:00 からを予定。内容は、学士力実現に求められる教育改善モデルの検討で、引き続き学士力の解説と教育改善モデルの編集を継続して審議する予定。

以上